

【安藤昌益研究の最前線（その16）】

安藤昌益の真営道医学を伝承した江戸の町医・

川村真斎による処方収集書『真斎聚方』における

「本草之部 附方」の処方群〔【X】＝No.210～333〕は、
『本草綱目』の【附方】からの記載であることの考証、
および『真斎聚方』の全体的な構成について

——【X-6】『真斎聚方』〔No.281～303〕

〔『本草綱目』卷二十七（菜部）～卷三十二（果部）〕

【ただし、今回は〔No.287～299〕に、『本草綱目』以外
の書物からの記載が挿入されている。】

——さらに、真斎の「筆写・抄出方法」から

『真斎謄筆』と稿本『自然真営道』との
内容的同一性について考える

和田耕作

（KOSAKU WADA）

安藤昌益の真営道医学を継承した川村真斎（1785～1852）による処方収集書『真斎聚方』（内藤記念くすり博物館蔵本）は、浩瀚な著作である。

本稿では、本誌「PHN」35号に引き続いて、No.115以降の処方群と、それらに関連すると思われる『名家方選』三部作の処方群についての考証と考察を進める予定であったが、今回は、急遽予定を変更して、『真斎聚方』の「最終見出し」であるところの「本草之部 附方」〔No.210～333〕についての考証と考察を行うことにした。

「本草之部 附方」は、それまでの記述とは、大きく異なっており、その「出典」書目数も膨大であり、何による記載であるのかが、これまで不明であった。それは、『真斎聚方』における「最後の難関」と思われた。

しかし、実際に調査をしてみると、この問題は、意外にもすぐさま解決したのである。すなわち、「本草之部 附方」は、『本草綱目』の【附方】などからの記載であることが、このたび明らかとなった。

『本草綱目』は、各薬物などを、

【釈名】【集解】【正誤】【修治】【気味】【主治】【発明】【附方】

の八項目にわけて記述している。

真斎は、最後の【附方】の処方群の中からを選んで記載していることが明らかになった。一部には、【発明】や【修治】の項目からも記載しているところもある。

『真斎聚方』「本草之部 附方」には、『本草綱目』の書名も、処方のある巻数や「薬物名」などの項目も記されていない。したがって、本稿では【附方】などのある『本草綱目』の巻数や分類項目、さらには「薬物名」などをも示して、『真斎聚方』「本草之部 附方」の内容構成が明確となるように記述することとした。

今回は、その第6回目であり、【X-6】『真斎聚方』〔No.281～303〕

まで、すなわち、『本草綱目』の巻二十七〔菜部〕～巻三十二〔果部〕に相当する部分である。

ただし、今回の分には、途中〔No.287～299〕に『本草綱目』以外の書物からの記載が挿入されていることが判明した。

◎・『真斎聚方』の全体的構成について・◎

このたび、「本草之部 附方」の「出典」が判明したことにより、『真斎聚方』の全体的な構成を、次のように把握することができるようになった。

▼【第一部】・・・『真斎聚方』・「第一編」▼

・『真斎聚方』〔No.1～36〕

・この巻頭部分は、『類聚方集覧』などから記載によるものであり、

おもに『真斎方記』へと増補されるところのものである。

〔『PHN』32号（2018年8月号）を参照〕

▼【第二部】・・・『真斎聚方』・「第二編」▼

・『真齋聚方』〔「A」=No.37~115〕+〔「B」=No.116~209〕

・次は、各医書群と『名家方選』三部作からの処方群である。

〔「A」については、『PHN』33号（2018年9月号）~35号
（2018年11月号）を参照。〕

〔「B」については、今後、考証の予定であるが、その一部である安藤昌益と山脇東洋の処方群については、『PHN』30号
（2018年4月号）・31号（2018年5月号）を参照のこと。〕

・この「第二編」については、考証をさらに進めた上で、その構成について再考する予定である。

▼〔第三部〕・・・『真齋聚方』・「第三編」▼

・『真齋聚方』「本草之部 附方」〔第三部〕の構成

〔「A」=No.210~287〕（『本草綱目』【附方】などによる記載）

+〔「B」=No.287~299〕・【『本草綱目』以外の書物の処方群】・

+〔「C」=No.299~303〕（『本草綱目』【附方】などによる記載）

+〔「D」=No.303~333〕（『本草綱目』【附方】などによる記載）

・『真齋聚方』の「第三編」と言える「本草之部 附方」は、このたび『本草綱目』【附方】などからの記載であることが明らかになったのである。

・『真齋聚方』の「本草之部 附方」は、分量的には、『真齋聚方』の中の三分の一を超えており、上記の「第一編」と「第二編」を合わせて、仮に『真齋聚方』の「前編」とすれば、明らかに『真齋聚方』の「後編」と呼んでよいものである。

・しかし、今回（6回目）初めて明らかになったのは、『真齋聚方』

〔「B」=No.287~299〕の存在である。この部分は、『本草綱目』

以外の書物から記載した処方であることが明らかとなった。

〔「A」については、『PHN』36号（2019年1月号）~『PHN』41号（2019年6月号）を参照のこと〕

〔「B」〕については、『PHN』41号（2019年6月号）を参照のこと〕

〔「C」〕については、『PHN』41号（2019年6月号）を参照のこと〕

〔「D」については、今後、考証の予定である。〕

●・【出典】の考証のための文献一覧・●

- ・『新註校定・国譯本草綱目』（第八冊）〔菜部・果部〕
（昭和50年7月、新註増補版、春陽堂書店刊）〔和田文庫蔵〕
〔以下、『国訳本草綱目』（第八冊）と略記する。〕
- ・〔明〕李時珍『本草綱目』（全二冊）
（1986年5月、商務印書館香港分館刊）〔和田文庫蔵〕
- ・『補註・本草綱目』（上巻、多紀安元遺稿、多紀鶴郎・永島忠共纂）
（大正四年十月、半田屋医籍商店刊）〔和田文庫蔵〕
- ・『補註・本草綱目』（下巻ノ一、多紀安元遺稿、多紀鶴郎・永島忠共纂）
（大正五年十一月、半田屋医籍商店刊）〔和田文庫蔵〕

▼凡例▼

-
- 〔金〕○.....。〔『本草綱目』の薬物名〕
- 【附方】.....（No.210）.....。〔『真齋聚方』におけるNo.〕
〔1／5〕.....。〔『本草綱目』の5処方の中の1処方を記載〕
- ・「軽粉破口」.....。「外台」〔A〕〔外台秘要〕〔B〕
〔A〕＝『真齋聚方』における略書名。
〔B〕＝『本草綱目』を参照したわかりやすい書名。
.....
- ・「▲」は、『真齋聚方』に出典が欠落しているもの。
- ・「――」は、『本草綱目』に出典の記載なきもの。
.....

-
- ◎・『真齋聚方』「本草之部 附方」の処方群の「出典」
である『本草綱目』【附方】との考証と考察・◎

.....

▼《Ⅰ.》▼

▼『本草綱目』卷二十七「菜部」・・・「菜之二」（柔滑類）より▼

○〔●〔クサカンムリの下に析〕蕒〕○・・・

・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.12）〕・

○○〔子〕・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.13）〕・

【附方】・・・（No.281）〔2／2〕

・①「眼目熱痛」・・・「——」

・②「眼中胥肉」・・・「海上」〔海上方〕

○〔雞腸草〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.18）〕・

【附方】・・・（No.281）〔1／9〕

・①「漆瘡癢痒」・・・「肘後」〔肘後方〕

○〔莧〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.23）〕・

○○〔菜〕・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.26）〕・

【附方】・・・（No.281）〔4／7〕・

・①「漆瘡搔痒」・・・「——」

・②「蜈蚣螫傷」・・・「談堊」〔談堊翁方〕

・③「蜂螫螫傷」・・・「——」

・④「諸蛇螫人」・・・「集驗」〔集驗方〕

○〔馬齒莧〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.29）〕・

○○〔菜〕・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.31）〕・

【附方】・・・（No.281）〔6／38〕

・①「小兒臍瘡」・・・「千金」〔千金方〕

・②「毛虫螫人」・・・「靈苑」〔靈苑方〕

・③「蜂螫螫人」・・・「張文」〔張文仲方〕

・④「蜈蚣咬傷」・・・「▲」〔肘後方〕

・⑤「小兒白禿」・・・「聖恵」〔聖恵方〕

・⑥「身面癢痕」・・・「聖恵」

○〔灰藿〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.73）〕・

【附方】・・・（No.281）〔1／1〕

・①「疔瘡惡腫」・・・「普濟」〔普濟〔方〕〕

▼▼▼・・・●【No.281】●・・・

▼次にある2処方、『本草綱目』からの記載ではないと思われる。

・①「陰萎不興」・・・「岫嶽神書」

- ・「蜂巢焼・・・」
- ・②「陰寒萎弱」・・・「千金方」
- ・「蜂房灰・・・」

▲▲▲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 〔薯蓣〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.87）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.281）〔1／11〕
- ・①「手足凍瘡」・・・・・・・・「儒門」〔儒門事親〕
- 〔百合〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.97）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.281）〔1／16〕
- ・①「拔白換黒」・・・・・・・・「便民」〔便民圖纂〕
- 〔山丹〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.104）〕・
- 【釈名】紅百合
- ・〔山丹〕の項には、【附方】はない。【釈名】からの記載である。
- 〔花〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.105）〕・
- 【主治】活血其蕊傳疔瘡惡腫、〔時珍〕。
- ・〔花〕【主治】からの記載である。

●【考察1】●

- ・『本草綱目』からの記載ではないと思われる処方が2つある。
- ・その他は、原文どおりの記載である。

▼《Ⅱ.》▼

- ▼『本草綱目』卷二十八「菜部」・・・・・・・・
- ・・・「菜之三・四・五」（薺菜類・水菜類・芝栴類）より▼
- ・・・・・・・・

▼《Ⅱ-A.》▼

- ▼『本草綱目』卷二十八「菜部」・・・・・・・・「菜之三」（薺菜類）▼
- ・・・・・・・・
- 〔茄〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.117）〕・
- 〔蒂〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.123）〕・
- 【發明】「時珍曰」治癰風・・・。
- ・【發明】の項からその全文を記載している。

- 〔花〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.124）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.282）〔1／1〕
- ・①「牙痛」・・・・・・・・「海上」〔海上名方〕
- 〔苦瓠〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.130）〕・
- 〔瓢・子〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.132）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.282）〔1／25〕
- ・①「鼻塞気塞」・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- 〔敗瓢〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.136）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.282）〔1／6〕
- ・①「湯火傷灼」・・・・・・・・「集簡」〔集簡方〕
- 〔冬瓜〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.138）〕・
- 〔白冬瓜〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.140）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.282）〔2／14〕
- ・①「食魚中毒」・・・・・・・・「小品」〔小品方〕
- ・②「面黒令白」・・・・・・・・「聖濟」〔聖濟総録〕
- 〔白瓜子〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.143）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.282）〔5／7〕
- ・①「服食法」・・・・・・・・「食療」〔孟詵食療〕
- ・②「悦沢面容」・・・・・・・・「肘后」〔肘後方〕
- ・③「消渴不止」・・・・・・・・「摘玄」〔摘玄方〕
- ・④「男子白濁」・・・・・・・・「救急」〔救急易方〕
- ・⑤「女子白帶」・・・・・・・・「救急」
- 〔胡瓜〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.150）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.282）〔4／7〕
- ・①「咽喉腫痛」・・・・・・・・「集要」〔医林集要〕
- ・②「杖瘡●〔火ヘンに欣〕腫」・・・・・・・・「集要」
- ・③「火眼赤痛」・・・・・・・・「寿域神方」
- ・④「湯火傷灼」・・・・・・・・「摘要」〔医方摘要〕
- 〔絲瓜〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.153）〕・
- 〔瓜〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.154）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.283）〔3／28〕
- ・①「痘瘡不快」・・・・・・・・「直指」〔直指方〕
- ・②「下血危篤」・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・③「酒痢便血」・・・・・・・・「▲」〔經驗良方〕
- 〔藥〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.159）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.283）〔5／6〕

- ・①「虫癬」・・・・・・・・・・「衆妙」〔摂生衆妙方〕
- ・②「陰子偏墜」・・・・・・・・・・「選奇」〔選奇方〕
- ・③「頭瘡生蛆」・・・・・・・・・・「怪證」〔小山怪證方〕
- ・④「湯火傷灼」・・・・・・・・・・「海上」〔海上名方〕
- ・⑤「刀瘡神藥」・・・・・・・・・・「集驗」〔集驗方〕

〇〇〔藤根〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.160）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.283）〔1／7〕

- ・①「腰痛不止」・・・・・・・・・・「雜興」〔鄧筆峯雜興〕

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《Ⅱ－B.》▼

▼『本草綱目』卷二十八「菜部」・・・・・・・・「菜之四」（水菜類）▼

・・・・・・・・▼〔この節からの記載項目はない。〕・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《Ⅱ－C.》▼

▼『本草綱目』卷二十八「菜部」・・・・・・・・「菜之五」（芝栴類）▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○〔木耳〕○・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.181）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.283）〔2／6〕

- ・①「眼流冷淚」・・・・・・・・・・「▲」〔惠濟方〕
- ・②「一切牙痛」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕

〇〇〔榆耳〕・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.189）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.283）〔1／1〕

- ・①「服食法」・・・・・・・・・・「――」

●【考察2】●

・いくつか「出典」不記載のところもあるが、その他は原文どおりの記載である。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《Ⅲ.》▼

▼『本草綱目』卷二十九「果部」・・・・・・・・「果之一」（五果類）より▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- [李] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.209)] .
- [花] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.214)] .
- 【附方】 (No.283) [1/1]
- ・ ① 「面黒粉滓」 「普濟」 [普濟方]
- [杏] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.215)] .
- [核仁] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.218)] .
- 【附方】 (No.284) [7/53]
- ・ ① 「身面疣目」 「千金」 [千金方]
- ・ ② 「面上𧄢炮」 「食療」 [孟詵食療]
- ・ ③ 「耳出濃汁」 「梅師」 [梅師方]
- ・ ④ 「鼻中生瘡」 「千金」
- ・ ⑤ 「小兒臍爛」 「子母」 [子母秘録]
- ・ ⑥ 「解狼犬毒」 「千金」
- ・ ⑦ 「白癰風斑」 「聖濟」 [聖濟總録]
- [花] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.231)] .
- 【附方】 (No.284) [1/2]
- ・ ① 「粉滓面● [黒ヘンに干]」 「聖濟」 [聖濟總録]
- [桃] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.245)] .
- [核仁] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.249)] .
- 【附方】 (No.284) [5/31]
- ・ ① 「産後陰腫」 「——」
- ・ ② 「婦人陰癢」 「肘后」 [肘後方]
- ・ ③ 「男子陰腫」 「外台」 [外台秘要]
- ・ ④ 「小兒卵癰」 「外台」
- ・ ⑤ 「唇乾裂痛」 「海上」
- [桃梟] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.255)] .
- 【附方】 (No.284) [1/8]
- ・ ① 「五種癰疾」 「王隱」 [王隱君養生主論]
- [花] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.257)] .
- 【附方】 (No.284) [2/16]
- ・ ① 「面上粉刺」 「聖惠」 [聖惠方]
- ・ ② 「令面光華」 「聖濟」 [聖濟總録]
- [棗] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.279)] .
- [根] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.291)] .
- 【附方】 (No.284) [1/1]

・①「令髮易長」・・・「聖恵」〔聖恵方〕

●【考察3】●

・原文どおりの記載である。

▼《Ⅳ. 》▼

▼『本草綱目』卷三十「果部」・・・「果之二」（山果類）より▼

○〔梨〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.295）〕・

○○〔実〕・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.298）〕・

【附方】・・・（No.284）〔1／9〕

・①「反胃転食」・・・「——」〔総録〕

○〔木瓜〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.310）〕・

○○〔実〕・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.313）〕・

【附方】・・・（No.284～285）〔4／12〕

・①「臍下絞痛」・・・「食療」

・②「小兒洞痢」・・・「千金」〔千金方〕

・③「髮稿〔稿〕不澤」・・・「聖恵」〔聖恵方〕

・④「辟除壁虱」・・・「臞仙」〔臞仙神隠〕

○〔山楂〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.325）〕・

○○〔実〕・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.328）〕・

【附方】・・・（No.285）〔3／6〕

・①「痘疹不快」・・・「危氏」〔危氏得效方〕

・②「痘瘡乾黒」・・・「全幼」〔全幼心鑑〕

・③「食肉不消」・・・「——」〔簡便方〕

○〔柿〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.339）〕・

○○〔白柿・柿霜〕・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.342）〕・

【附方】・・・（No.285）〔3／14〕

・①「婦人蒜髮」・・・「普濟」

・②「臍脰爛〔瘡〕」・・・「雜興」〔筆峯雜興〕

・③「解桐油毒」・・・「普濟」

○○〔柿蒂〕・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.346）〕・

【附方】・・・（No.285）〔1／1〕

・①「欬逆不止」・・・「濟生」「潔古」「三因」など

○ [安石榴] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.352)] .

○○ [酸石榴] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.355)] .

【附方】 (No.285) [1/5]

・ ① 「腸滑久痢」 「——」

○ [橘] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.360)] .

○○ [黄橘皮] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.365)] .

【附方】 (No.285~286) [7/28]

・ ① 「寛中丸」 「指迷」 [是齊指迷方]

・ ② 「霍乱吐瀉」 「百一選方」 [聖恵 [方]]

・ ③ 「卒然失声」 「肘後」 [肘後方]

・ ④ 「途中心痛」 「談堊」 [談堊翁方]

・ ⑤ 「食魚蟹毒」 「肘后」 [肘後 [方]]

・ ⑥ 「婦人乳癰」 「張氏」 [張氏方]

・ ⑦ 「嵌甲作痛」 「医林」 [医林集要]

○○ [青橘皮] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.373)] .

【附方】 (No.286) [3/9]

・ ① 「婦人乳癰」 「丹溪」 [丹溪方]

・ ② 「聾耳出汁」 「——」

・ ③ 「唇燥生瘡」 「——」

○○ [橘核] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.376)] .

【附方】 (No.286) [1/1]

・ ① 「腰痛」 「簡便」 [簡便方]

○ [枇杷] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.393)] .

○○ [葉] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.395)] .

【附方】 (No.286) [4/7]

・ ① 「酒● [ヤマイダレに査] 赤鼻」 . . . 「本事」

・ ② 「面上風瘡」 「本事」

・ ③ 「痔瘡腫痛」 「集要」

・ ④ 「痘瘡潰爛」 「摘玄」

○ [胡桃] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.412)] .

○○ [核仁] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.413)] .

【附方】 (No.286) [5/33]

・ ① 「久嗽不止」 「蕭大尹方」

・ ② 「食酸齒● [齒へんに楚] 」 . . . 「日華」 [日華本草]

・ ③ 「誤吞銅錢」 「李樓」 [李樓方]

・ ④ 「揩齒烏髮」 「聖恵」 [聖恵方]

- ・⑤「火焼成瘡」・・・「——」
- [胡桃青皮]・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.422）〕・
- 【附方】・・・（No.286）〔2／4〕
- ・①「烏鬚髮」・・・「——」
- ▼・後半にある「総録」からの文が省略されている。
- ・②「白癩風」・・・「——」
- [榲桲] ○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.436）〕・
- [木皮]・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.439）〕・
- 【附方】・・・（No.286）〔1／9〕
- ・①「肘骨疽瘡」・・・「千金」〔千金方〕

●【考察4】●

- ・一部に省略がみられるが、その他は原文どおりの記載である。

▼《V-A.》▼

▼『本草綱目』卷三十一「果部」・・・「果之三」（夷果類）より▼

- [荔枝] ○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.441）〕・
- [実]・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.446）〕・
- 【附方】・・・（No.286～287）〔2／6〕
- ・①「痘瘡不発」・・・「痘疹」〔聞人規痘疹論〕
- ・②「呃逆不止」・・・「摘要」〔楊拱医方摘要〕
- [龍眼] ○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.450）〕・
- [実]・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.452）〕・
- 【附方】・・・（No.287）〔1／1〕
- ・①「帰脾湯」・・・「済生」〔済生方〕
- [橄欖] ○・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.455）〕・
- [核]・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.460）〕・
- 【附方】・・・（No.287）〔2／3〕
- ・①「陰腎癰腫」・・・「——」
- ・②「耳足凍瘡」・・・「乾坤」〔乾坤生意〕

▼▼▼この項は、「●【No.299】●」へと続く。▼▼▼

.....

.....

・以下の処方群は、『本草綱目』からの記載ではないようである。

▼▼▼・・・●【No.287】●～●【No.299】●・・・・・・

・・・▼・「『本草綱目』以外からの記載処方」・▼・・・・・・

.....

▼・・・●【No.287】●・・・・・・

・①「禿雞丸」（九味）・・・・・・「松岑集」

・「治男婦諸虛百損」

・「又方」（十味）・・・・・・「松岑集」

・「泰丘師方也」「主治補心脾腎、一切虛弱者也。」

・「由之名人參三臟圓也」

・②「癭瘤之方」・・・・・・「松岑集」

・「海藻散坐〔堅〕丸」（四味）・・・・・・「外科樞要」（薛己著）

・「治肝經癭瘤」・・・・・・『外科樞要』（卷四）にあり。

・③「松岑集 痘不起脹者虛也・・・保元湯方」・・・・「松岑集」

・「保元湯」（四味）・・・・『重訂古今方彙』（甲賀通元）の
「痘瘡」の項にあり。

・④「松岑集 防儉餅」（四味）

・⑤「古今医鑑 白雪糕方」（六味）・・・・「古今医鑑」

・「調脾健胃固本還元」

・⑥「粒甲丹」（八味＋三味）・・・・「勢州俗家之方也」

・「昼夜不寐者」

●【考察5】●

・「松岑集」については、不明である。

▼・・・●【No.288】●・・・・・・

・①「朱子読書丸」（七味）

・「読昼日記万千言」

・「朱子読書丸」は、『医学入門』（卷六）【雑病用・・・】の項の

「虚」のところに見られるが、こことは薬物に少しく異動が

みられる。

・②「孔子大聖沈中方」（三〔四〕味）・・・・「▲」〔万病回春〕

- ・「孔子大聖沈中方」（四味）は、『万病回春』（巻四）【健忘】の項にあるが、ここでは「遠志」が欠落しており、「三味」である。
- ・③「黒錫丹」（九味）・・・・・・・・「局方」〔和剤局方〕
 - ・出典は『和剤局方』とあるが、「三因方」からの記載もあるので直接『和剤局方』（十二味）から記載したのではなく、他書からの孫引きであろうと思われる。
- ・④「延齡丹」（十四味）・・・・・・・・「▲」
 - ・「治眩暈悶絶顛倒霍乱転筋・・・」
- ・⑤「一粒金丹」（五味）・・・・・・・・「▲」〔医学入門〕
 - ・「治五勞七傷男女諸般勞・・・」
 - ・上記の文は、『医学入門』（巻六）の【内傷】の項からの記載である。
 - ・末尾に小文字で「一方 有紫何〔河〕車」とあるが、この文は、真斎によるものと思われる。
- ・⑥「獺肝丸」（八味）・・・・・・・・「▲」
 - ・「治骨蒸伝屍・・・」
- ・「一方」（四味）・・・・・・・・「▲」
- ・⑦「六味地黄丸」・・・・・・・・「▲」〔万病回春〕
 - ・「医貫云 治傷寒口渴者」
 - ・「六味地黄丸」の処方、は、『万病回春』（巻四）【虚勞】の項にある。
- ・⑧「補中益氣湯」〔八味〕・・・・・・・・〔万病回春〕
 - ・「丹溪云 下後譫語・・・」
 - ・「補中益氣湯」の処方、は、『万病回春』（巻二）の【内傷】の項にある。
 - ・「補中益氣湯」の処方、は、『真斎方記』にも見られるが、ここでの記載とは異なっている。

●【考察6】●

- ・「出典」の不記載が多くみられる。
-

- ・①「桔梗枳殼湯」（三味）・・・「活人」〔活人事証方〕
 - ・「要訣云 欲用大陷湯・・・」
- ・②「清上梅蘇丸」（三味）・・・「寿世」〔寿世保元〕
 - ・「清上焦熱潤肺・・・」
- ・③「治黃胖 一方」（三味）・・・「▲」
- ・④「脾勞丸」（三味＋平胃散）・・・「▲」
 - ・「治脾勞黃胖」
- ・⑤「黃胖丸」（四味）・・・「▲」
 - ・「治黃胖」
- ・⑥「一方」（四味）・・・「▲」
 - ・「黃疸動悸」「東洞方 有大黃」
- ・⑦「一方」（一味）・・・「▲」
 - ・「傷寒熱甚吐而飲食水藥共不容者」
- ・⑧「一方」（一味）・・・「▲」
 - ・「傷寒初發邪至劇者」
- ・「或云 傷寒余熱未除者主方」
- ・⑨「敷藥 治禁口痢」
- ・⑩「治疫痢」（香蘇散＋五味）
- ・⑪「一方 治久瀉不止」
- ・⑫「寿世保元云 治小兒泄瀉不止・・・」・・・「寿世保元」
 - ・『寿世保元』（卷八）【吐瀉】の項の処方「金棗丸」の付論三から全文を記載しているものである。
- ・⑬「赤水玄珠云 熱痰喘嗽、火迫肺者〔金〕。・・・「赤水玄珠」
 - 白虎湯〔加〕瓜蒌仁・枳實・黃金、〔神效〕」
 - ・『赤水玄珠』（卷七）【喘門】の項の「雜方」中の「加味白虎湯」からの記載である。
- ・⑭「医学綱目云 多年咳嗽肺痿咯血紅丹者・・・」・・・「医学綱目」

●【考察7】●

- ・「出典」の不記載が多くみられる。
-

▼・・・●【No.290】●・・・

- ・①「金竜丹」（六味）・・・「▲」
- ・②「楨榔黑豆湯」（六味）・・・「▲」

・③「雞卵酒」・・・・・・・・「▲」

・④「参花散」（二味）・・・・・・・・「▲」

・末尾に「博案 此人参当用三七根」との、真齋の按文がある。

・⑤「浴方」（四味）・・・・・・・・「▲」

・⑥「錫痺湯」（六味）・・・・・・・・「済生」

・⑦「金屑丸」（四味）・・・・・・・・「▲」

・⑧「一方」・・・・・・・・「▲」

・⑨「蘭方」（二味）・・・・・・・・「▲」

・⑩「又方」・・・・・・・・「▲」

・⑪「百一選方云 治衄血」・・・「百一選方」

・⑫「四物湯 治久年不愈下血者」

・⑬「順和散 下血」（二味）・・・・・・・・「▲」

・⑭「本事方 治腸風下血」・・・「本事方」

●【考察8】●

・「出典」の不記載が多くみられる。

▼・・・●【No.291】●・・・・・・・・・・・・・・・・

・①「野間方 下血腸熱也・・・」

・②「四磨丸」（四味）・・・・・・・・「▲」〔嚴氏済生方〕

・「治上気喘急妨悶不食」

・上記「主治文、薬物」とも、『嚴氏済生方』（卷二）【喘論治】の項の処方「四磨湯」に一致している。ただし、主治文の一部が省略されている。

・③「生地黄丸」（五味）・・・・・・・・「▲」

・④「白薇湯」（四味）・・・・・・・・「得効」〔得効方〕

・「白薇湯」（四味）は、『医学入門』（卷七）の【婦人用・・・】の項にも見られるが、こことは「主治文」が異なっている。

・⑤「一方 下蛭虫」

・⑥「下療虫方」（四味）・・・・・・・・「▲」

・⑦「一方 治小兒虫症」（二味）

・⑧「一郎二子散 治諸虫」（三味）

・⑨「頭風神方」（十一味）・・・・・・〔先醒齋医学広筆記〕

・「頭風神方」は、「PHN」35号（2018年11月）の「（No.96）」にすでに記載されている。

・『先醒斎医学広筆記』（巻三）「雑症」【脳漏】の項からの記載である。主治文がないのも原文どおりである。

・『観聚方要補』（文政版・安政版）にも主治文の記載はない。

・ここでは、最初に書かれている薬物名が原文および「(No.96)」の「土茯苓」ではなく、「葶藶（ひかい）」〔ヤマノイモ科の多年草であるトコロ（オニドコロ）の根茎〕となっている。

ともに利尿・解毒剤である。

・⑩「琥珀円」（七味）・・・・・・「▲」

▼・末尾に「博案ルニ、此方 琥珀ナシ。琥珀錠ト同効ナル故ニ名クル乎」との、真斎の按文がある。

・⑪「赤丸 婦人血瘀癰癖積・・・」（三味）・・・・・・「▲」

・⑫「補天丸 一〔名〕海狗腎丸」・・・・・・「松前家秘方」

・「海狗腎」とは、オットセイの陰茎。

●【考察9】●

・「出典」の不記載が多くみられる。

・「琥珀円」には、真斎の按文がある。

▼・・・●【No.292】●・・・・・・・・・

・①「加味八味丸」

・②「靈骨散 治勞瘵」

・③「返本丸 治脾腎及諸虚損」（四味）・・・・・・「▲」〔医学入門〕

・『医学入門』（巻六）【雑病用・・・】の「虚」の項からの記載である。

・④「古今医鑑云 一婦人虚勞發熱盜汗咳嗽・・・」

・⑤「療瘵湯」（六味）・・・・・・「辨正」

・⑥「凉髓丹」（六味）・・・・・・「辨正」

・⑦「小柴胡湯 治汗下後盜汗者」・・・・「医通」

・⑧「龍膽瀉汗湯 治湿熱陰囊常自汗者」・・・・「医通」

・⑨「張氏医通云 頭汗出到頭而・・・」・・・・「医通」

・⑩「一方 陰囊湿汗者」

・⑪「牡蠣湯 治小兒盜汗」（三味）・・・・・・「▲」

・⑫「一方 肺癰咳唾膿血脈動数者」（十味）

・「野間云 治肺痿症・・・」

●【考察10】●

- ・「辨正」については、不明である。

▼・・・●【No.293】●・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・①「一方 治淋疼痛甚者」（二味）・・・「三因」〔三因方〕
- ・②「防風羌活湯」（八味）
 - ・「眉稜骨痛而風寒痰温者」
- ・③「治平素有頭痛癖者」（二味）
- ・④「厚朴温中湯」（七味）・・・・・・・・「辨惑」〔辨惑論〕
 - ・『辨惑論』（卷中）「肺之脾胃虚方」の項からの記載である。
- ・⑤「大全良方云 治妊娠腰痛者」・・・「〔婦人〕大全良方」
 - ・『婦人大全良方』（卷十二）「妊娠腰痛・・・第十四」の「紫酒」からの記載である。
- ・⑥「百一選方 治腰痛」（三味）・・・・・・・・「百一選方」
- ・⑦「一方 治白屑極多」
- ・⑧「治面上雀斑方」（三味）
- ・⑨「物理小識曰 黒髪油方」・・・・・・・・「物理小識」
 - ・『物理小識』（方以智著）（卷五、医薬類・下、薬）の「黒髪油」から、その全文を記載している。
 - ・『物理小識』では、「茶子油」以降の文字がすべて小文字文である。「又兆交曰」の原文は、「兆堯曰」である。末尾の「本草未載」も原文のもので、小文字文である。
 - ・三浦梅園が、『物理小識』から大きな影響を受けたことは、よく知られているが、真斎が『物理小識』を読んでいることは特筆してよい。
- ・⑩「四物竜胆湯」（七味）
 - ・「治目痛暴作翳雲疼不可忍」
- ・⑪「本事方 取牙落不犯手」
- ・⑫「長春穿牙散」（十二味）・・・・・・・・「医通」〔張氏医通〕
 - ・『張氏医通』（卷十五）の【齒門】の項からの記載である。
 - ・原文は、「烏鬚髮。去牙風除口氣。」であるが、ここでは「烏鬚髮」の文が「口氣」の後に記載されている。

●【考察11】●

- ・真斎が方以智の『物理小識』を読んでいたことは注目してよい。

▼・・・●【No.294】●・・・

- ・①「五香丸」（十味）・・・「千金」〔千金方〕
 - ・『千金方』（巻六・上）の【口病第三】の項からの記載である。
 - ただし、原文には、「零陵香」があり、「十一味」である。
- ・②「治産後熱毒口中腐爛不得食者」（三味）
 - ・末尾の小文字文、「初惨痛不可忍者二三次効奇々妙々也」は、おそらく真斎によるものであろう。
- ・③「香茶餅」（三味）・・・「古今医鑑」
- ・④「治痔疼痛甚難堪方」（三味）
- ・⑤「又方 内痔有下血者」
- ・⑥「治脹痔下血如注水方」・・・「原出：蘇沈良方」
- ・⑦「良姜円 治脱肛」（六味）
 - 「一方」
- ・⑧「医墨元戎云 血氣枯澁大便秘結不通者」・・・「医墨元戎」
- ・⑨「治老幼秘結方 心煩者」（三味）
- ・⑩「治中風初發者 奇方・・・」（五味）
- ・⑪「痿躄加味四物湯」（本方加五味）・・・「正伝」〔医学正伝〕
- ・⑫「安神散」（五味）・・・「寿世」〔寿世保元〕
 - ・『寿世保元』（巻七）【婦人雜病】の項の「安神散」の「主治文」からの記載である。なお、末尾の一文は省略されている。

▼・・・●【No.295】●・・・

- ・①「一方 治狐託人如狂乱者」（三味）
- ・②「沐浴方 令人香肌膚去風癬」（十四味）
- ・③「括蓂仁湯」（七味）
 - ・「治乳風腫痛」
- ・④「一方 東洋」
 - ・「治乳岩潰爛精神日衰」
- ・⑤「吉祥円」（十一味）
 - ・「積年不孕者」

・⑥「丹臺玉案云 治産後陰戸及子宮脱下不収」・・・「丹臺玉案」

・⑦「竜王湯」(十四味)

・「治産前後諸症脱血多者禁用」

・⑧「急驚風 加減涼膈散 本方」・・・「活幼」〔活幼心書〕

・⑨「異方 銀白散 治慢驚風・・・」(十二味)

・⑩「龍虎円」(九味)・・・「岡田家方」

・⑪「牛黄真珠龍虎円、木下龍虎円ト云」(十味)

▼・・・●【No.296】●・・・

・①「保童円 治五疳」(五味)

○「加減方」(十味)

○「又方」(六味)

・②「直指方云 欲發痘瘡麻疹最妙」

・「古今医鑑・・・」

・③「錢氏云 痘・・・」〔錢乙の著作には『小兒藥証直訣』がある。〕

○「一方・・・」

・④「灸方」

・⑤「蟻入耳用・・・」

・⑥「治療疽方」

・⑦「治同前 一切指腫方」

・⑧「治同前 疼痛不可忍方」

○「又方」

・⑨「肉流散」(三味)・・・「撮要」

・「去一切弩肉・・・」

⑩「豕椒散」(七味)・・・「撮要」

・「一切腫毒痛者皆能消散」

▼・・・●【No.297】●・・・

・①「拔疔毒方」

・②「蒼耳散」

・「疔瘡根脚自然拔出消散・・・」

・③「山錫杖湯」(五味)

・「治馬刀瘻・・・」

・④「頭風神方」(十一味)

・「治瘡毒上攻・・・」

・⑤「治下疳腐爛方」(三味)

・⑥「浮萍湯」(十味)

・「楊梅瘡初発・・・」

○「依此方 博〔真斎〕製」(九味)

・「此方粉毒上攻用之奏奇効、頭痛甚者加辛夷」

▼・これは、真斎が作製したオリジナルの処方である。

・⑦「治鉄棘竹木諸刺肉中不出・・・」

・⑧「蓖麻●〔サンズイに厄〕」(二味)・・・「撮要」

・「竹木刺入肉中不拔者」

・⑨「拔尖散」「又方」・・・「撮要」

●【考察12】●

・真斎が作製したオリジナルの処方が記載されている。

▼・・・●【No.298】●・・・

・①「百一選方云 治竹木鉄針入肉中・・・」・・・「百一選方」

○「又五加木茎葉・・・」

・②「種杏仙方云 治金瘡血不止・・・」・・・「種杏仙方」

○「出不止者」

・③「治諸血症方」

・④「白朮散」・・・「撮要」

・「止痛消腫消散瘀血」

・⑤「鉛華散」(三味)・・・「撮要」

・「接骨続筋活血止痛」

・⑥「湯澆火焼」

○「又方」 ○「又方」 ○「又」 ○「一方」

・⑦「治陰囊湿痒」(四味)

・⑧「治風方」

・⑨「海上方 治蛇咬」

・⑩「治誤吞銅鉄或金銀等物不能化者」

・⑪「救凍死方」

▼・・・●【No.299】●・・・

・①「救喝死方」

・②「救諸絶方」

・③「透頂香」(五味)

・④「又方」(八味)

・⑤「衣香」(俗方)(九味)

・⑥「令髮不落」（三味）・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○「由之予〔真斎〕製一方」（八味）

▼・真斎が作製したオリジナルの処方である。

●【考察13】●

・真斎が作製したオリジナルの処方がある。

▲▲▲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《V-B.》▼・「前出《V-A.》からの続き」（No.299～303）▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼『本草綱目』卷三十一「果部」・・・・・・「果之三」（夷果類）より▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○〔榧実〕○・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.468）〕・

○○〔被子〕・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.472）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.299）〔1／6〕

・①「寸白虫」・・・・・・・・・・【詵曰】、「外台秘要」

○〔海松子〕○・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.473）〕・

○○〔仁〕・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.475）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.299）〔2／4〕

・①「肺燥欬嗽」・・・・・・・・・・「外台」〔外台秘要〕

・②「大便虚秘」・・・・・・・・・・「宗爽」〔寇宗爽〕

○〔檳榔〕○・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.477）〕・

○○〔檳榔子〕・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.482）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.299～300）〔10／27〕

・①「痰涎為害」・・・・・・・・・・「御薬院方」

・②「嘔吐痰水」・・・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・③「醋心吐水」・・・・・・・・・・「梅師」〔梅師方〕

・④「傷寒痞滿」・・・・・・・・・・「宣明」〔宣明方〕

・⑤「傷寒結胸」・・・・・・・・・・「龐安時傷寒論」

- ・⑥「虻厥腹痛」・・・・・・・・・・「龐安時傷寒論」
- ・⑦「血淋作痛」・・・・・・・・・・「——」
- ・⑧「虫痔裏急」・・・・・・・・・・「——」
- ・⑨「寸白虫病」・・・・・・・・・・「千金」
- ・⑩「口吻生瘡」・・・・・・・・・・「——」

○〔大腹子〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.488）〕・

○○〔大腹皮〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.490）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.300）〔2／2〕

- ・①「漏瘡惡穢」・・・・・・・・・・「直指」
- ・②「烏癩風瘡」・・・・・・・・・・「聖濟」〔聖濟総録〕

●【考察14】●

・ここから、再び『本草綱目』からの記載に戻っている。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《VI.》▼

▼『本草綱目』卷三十二「果部」・・・・・・・・「果之四」（味類）より▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○〔秦椒〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.527）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.300）〔1／6〕

- ・①「手足心腫」・・・・・・・・・・「肘後」〔肘後方〕

○〔蜀椒〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.531）〕・

○○〔椒紅〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.533）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.300）〔5／35〕

- ・①「頭上白禿」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・②「婦人禿鬢」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・③「百虫入耳」・・・・・・・・・・「危氏」〔危氏方〕
- ・④「蛇入人口」・・・・・・・・・・「聖恵」
- ・⑤「腎風囊痒」・・・・・・・・・・「直指」〔直指方〕

○○〔椒目〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.541）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.300）〔2／5〕

- ・①「痔漏腫痛」・・・・・・・・・・「海上」〔海上方〕
- ・②「眼生黑花」・・・・・・・・・・「本事」〔本事方〕

○ [胡椒] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.547)] .

【附方】 (No.301) [6/23]

・ ① 「心下大痛」 「——」

▼ ・ 「寿域方 . . .」 「又方用椒 . . .」 「又方胡椒 . . .」 の三つの文
の中から、最後の「又方胡椒 . . .」のみを記載している。

・ ② 「霍乱吐利」 「——」

・ ここでは「孫真人 . . .」 「直指方 . . .」の全文を記載している。

・ ③ 「大小便閉」 「総録」

・ ④ 「阿伽陀〔陀〕丸」 「——」

・ ⑤ 「沙石淋痛」 「普濟」 [普濟方]

・ ⑥ 「蜈蚣咬傷」 「多能」 [多能鄙事]

○ [畢澄茄] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.554)] .

【附方】 (No.301) [1/6]

・ ① 「痘瘡入目」 「飛鴻集」

○ [呉茱萸] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.556)] .

【附方】 (No.301~302) [12/46]

・ ① 「風● [ヤマイダレに君、下に巾] 痒痺」
. 「食療」 [孟詵食療]

・ ② 「頭風作痛」 「千金翼方」

・ ③ 「嘔涎頭痛」 「仲景」 [仲景方]

・ ④ 「寒疝往来」 「肘後」 [肘後方]

・ ⑤ 「陰毒傷寒」 「聖恵」 [聖恵方]

・ 『本草綱目』では、⑤、④の順番である。

・ ⑥ 「小腸疝氣」 「局方」 [和剤局方]

・ ⑦ 「婦人陰寒」 「經心録」

・ ⑧ 「霍乱乾嘔」 「聖濟」 [聖濟録]

・ ⑨ 「多年脾泄」 「仁存」 [孫氏仁存方]

・ ⑩ 「産後盜汗」 「千翼」 [千金翼〔方〕]

・ ⑪ 「口瘡口疳」 「集簡」 [集簡方]

・ ⑫ 「魚骨入腹」 [孟詵食療]

・ 出典のところに「兵部」とあるのは、転記ミスである。

○ [茗] ○ [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.579)] .

○○ [葉] [『国訳本草綱目』 (第八冊、p.586)] .

【附方】 (No.302) [6/19]

・ ① 「熱毒下痢」 「——」

▼ ・ 最初の文「孟詵曰 . . .」のみを記載し、「直指 . . .」 「經驗良

方・・・」「一方・・・」「一方・・・」の四つの文を省略している。

- ・②「解諸中毒」・・・・・・・・・・「簡便」〔簡便方〕
- ・③「痘瘡作痒」・・・・・・・・・・「――」
- ・④「陰囊生瘡」・・・・・・・・・・「経験」〔経験方〕
- ・⑤「風痰顛疾」・・・・・・・・・・「摘玄」〔摘玄方〕
- ・⑥「月水不通」・・・・・・・・・・「鮑氏」

〇〇〔茶子〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第八冊、p.593）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.302～303）〔2／3〕

- ・①「上気喘急」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・②「頭腦鳴響」・・・・・・・・・・「摘要」〔医方摘要〕

●【考察15】●

- ・長文で、かつ複数の出典のある処方で、省略がある。

◎・むすび・◎

このたび、『真斎聚方』「本草之部 附方」の各処方が、『本草綱目』の各薬物の【附方】からの記載であることが判明したことにより、『真斎聚方』の全体的構成が、ここに初めて明らかになった。

そして、すでに述べたように、真斎は、『真斎聚方』「本草之部 附方」の各処方を、『本草綱目』の各薬物の【附方】の項から、基本的に「原文」そのままの内容で記載している。

それは、これまでの真斎の「筆写・抄出方法」を踏襲しているものである、と言えるであろう。

各処方の抄出については、真斎の臨床家としての必要性から選ばれたものと思われる。

『真斎聚方』「本草之部 附方」もまた、『本草綱目』の各薬物の【附方】の項から臨床的に参考となる処方群を抄出して、臨床研究に役立てるということが目標であった。その「按文」の一つひとつの内容が、それを物語っている。

いずれにしても、『本草綱目』の各薬物の【附方】を、これほど多く記載した真斎の研究態度には、感服せざるを得ない。

以上は、「第1回目の考証」における「むすび」であり、私はこの時点で『真斎聚方』「本草之部 附方」の全体的な評価を急ぐ必要はないと思う。その全体的な評価は、今後、さらなる「考証と考察」を進めてからでも十分であろう。

上記の「むすび」については、今回の「第6回目の考証」においても基本的に変わりはないと言えるであろう。

ただし、今回の分には、途中〔No.287～299〕に『本草綱目』以外の書物からの記載が挿入されていることが判明した。

この部分の記載については、「本草之部 附方」の前ある各医書からの処方群の記載と比較すると、「出典」の記載のないものも多く、その記載の仕方には統一性がなく、かなり雑然としているように思われる。急な必要性から、思い立って記載したものなのであろうか。

その他については、各項の【考察】において述べたとおりである。

〔2019年6月30日、PHN（思想・人間・自然）、第41号、PHNの会発行〕

〔2019年6月30日、和田耕作（C）、無断転載厳禁〕
